

# 吉川允二賞受賞者 への祝辞

2023年3月17日

核融合エネルギーフォーラム

運営会議議長

佐和隆光

1. 量子科学技術研究開発機構の松山顕之様には、この度の吉川允二記念核融合エネルギー賞優秀賞ご受賞、心よりお祝い申し上げます。また、ORNLの小柳孝彰様、量子科学技術研究開発機構の隅田脩平様、核融合科学研究所の小林真様、東京大学の田辺博士様には、吉川允二賞奨励賞ご受賞、心よりお祝い申し上げます。
2. 核融合エネルギー研究の分野では最も栄えある吉川賞を受賞なさった松山様、小柳様、隅田様、小林様、田辺様の日頃の絶え間なき研鑽と、持ち前のクリエイティビティに対し、頭の下がる思いがすると同時に、拍手喝采をお送りいたします。

3. 開会のご挨拶で申し上げました通り、今や、核融合という言葉が、脱炭素ブームの到来と相まってのことか、政治家や経営者の口の端にのぼせられるようになり、核融合は、遠からず、来るべき脱炭素社会におけるエネルギー供給の切り札とみなされるようになる気配であります。
4. いったい何時ごろ核融合は実用化するのかと問われると、2050年頃という答えが、昨今の常識のようであります。2050年というと、パリ協定がカーボンニュートラルを成し遂げる目途として定める年にほかなりません。

とはいえ、昨今、脱炭素の機運の世界的な高まりは、再生可能エネルギーでもない、原子力でもない、新しい脱炭素エネルギー源の開発を、喫緊の課題として求めるようになりました。とても2050年まで待つわけにはゆきません。

本日ご受賞なさった5名の研究者に加え、本日、全体会合に対面またはオンラインにてご参集の研究者、とりわけ若手の方々には、こうした世間の要望に応えるべく、画期的な研究業績を通じて、核融合の早期実現へ向けて、一石そして二石を投げられることを願ってやみません。本日は、誠におめでとうございます。